

日々 往来



大山 陽久

「1億総活躍社会」の表現に向けて、政府は「働き方改革」にも力を入れつつあり、毎月最終金曜日に仕事を早帰りし、消費を促進しようというプロ

「1億総活躍社会」の表現に向けて、政府は「働き方改革」にも力を入れつつあり、毎月最終金曜日に仕事を早帰りし、消費を促進しようというプロ

度が先月から始まった。同制度に対しては、「仕事から早く帰れてうれしい」との声が聞かれる一方、「仕事の減少につれて収入も減ったら困る」との声も上がっている。仕事のやり方を変えずに労働時間だけ短縮すれば、仕事総量が減って収入減を引き起こす可能性が高い。まさに、この施策の成否は仕事のやり方を変えることができるかにかかっている。

働き方改革＝効率的な時間活用

強しなさい」と口うるさく言って、子供が机に向かう時間を長くしても、勉強に身が入らなければ、勉強は遅々として進まない。一方、本人がやる気をもって取り組むと、短時間でもどんどん勉強は進む。要は勉強時間の多寡よりも「勉強時間と勉強効率の掛け算である積分値を最大化すること」が重要なのであり、自分に合った一番効率が高い時間帯を選んで勉強すれば、勉強時間は短く済み、「遊んでいても勉強できる」との評判が得られる。

働き方改革も、基本は長

(日本銀行鳥取事務所 長)

同じであろう。労働力人口が減少する中、地域経済を支える人材確保が問題となっているが、高齢者や女性も含めたさまざまなタイプの人々が、個々の事情を踏まえて効率よく仕事できるような勤務時間帯や職場環境を整えることが一つの有効な解決策となろう。「働き方改革」の基本となる「労働生産性の向上については、2016年1月18日付「日本一働きやすい鳥取県を目指そう」も参照下さい(日銀鳥取HPにも掲載)。